

Getting Started (SimpleDemo)

- ここではAndroid上で動作するHVC-Cのサンプルプログラム(SimpleDemo)を動作させる手順を説明します。
- このサンプルではデバイスの検索、接続、実行、結果取得、切断処理を行います。検出結果は画面にテキストデータとして表示されます。

1. 用意するもの

- HVC-C
- Bluetooth 4.0 (Bluetooth Low Energy)搭載のAndroid端末
- Androidプログラムをビルド可能な環境

※本サンプルプロジェクトはEclipseを使用

Android SDK : Android 4.4W

Java Compiler : 1.7以上

2. サンプルコードの取得

HVC-C用サンプルコードをPC上の任意のフォルダにコピーして下さい。

- HVC-C用クラスライブラリ

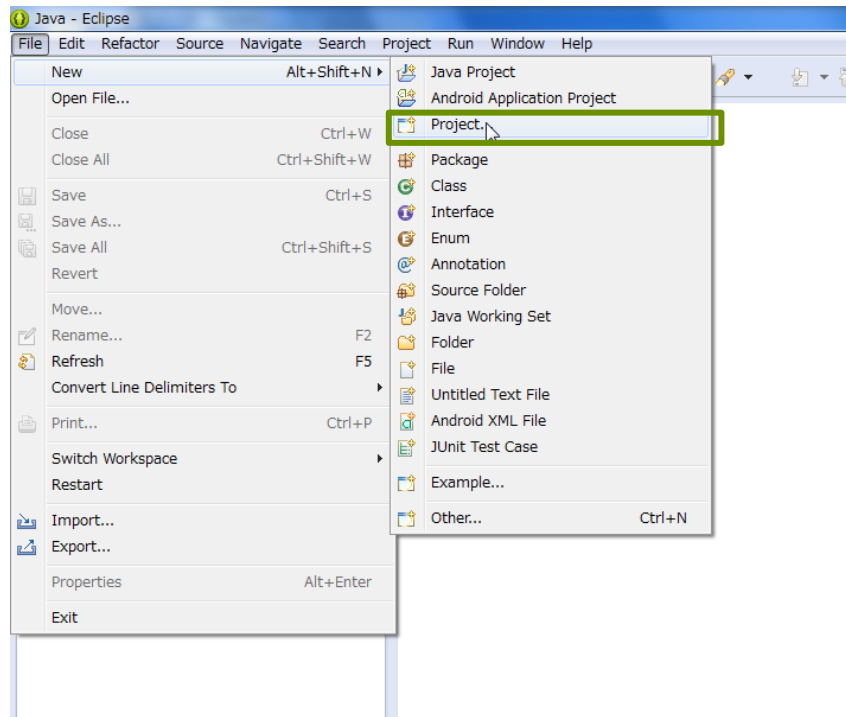
https://github.com/OmronSensingEggProject/HVC-C1B_SDK-Android

- サンプルデモアプリ

https://github.com/OmronSensingEggProject/HVC-C1B_SimpleDemo-Android

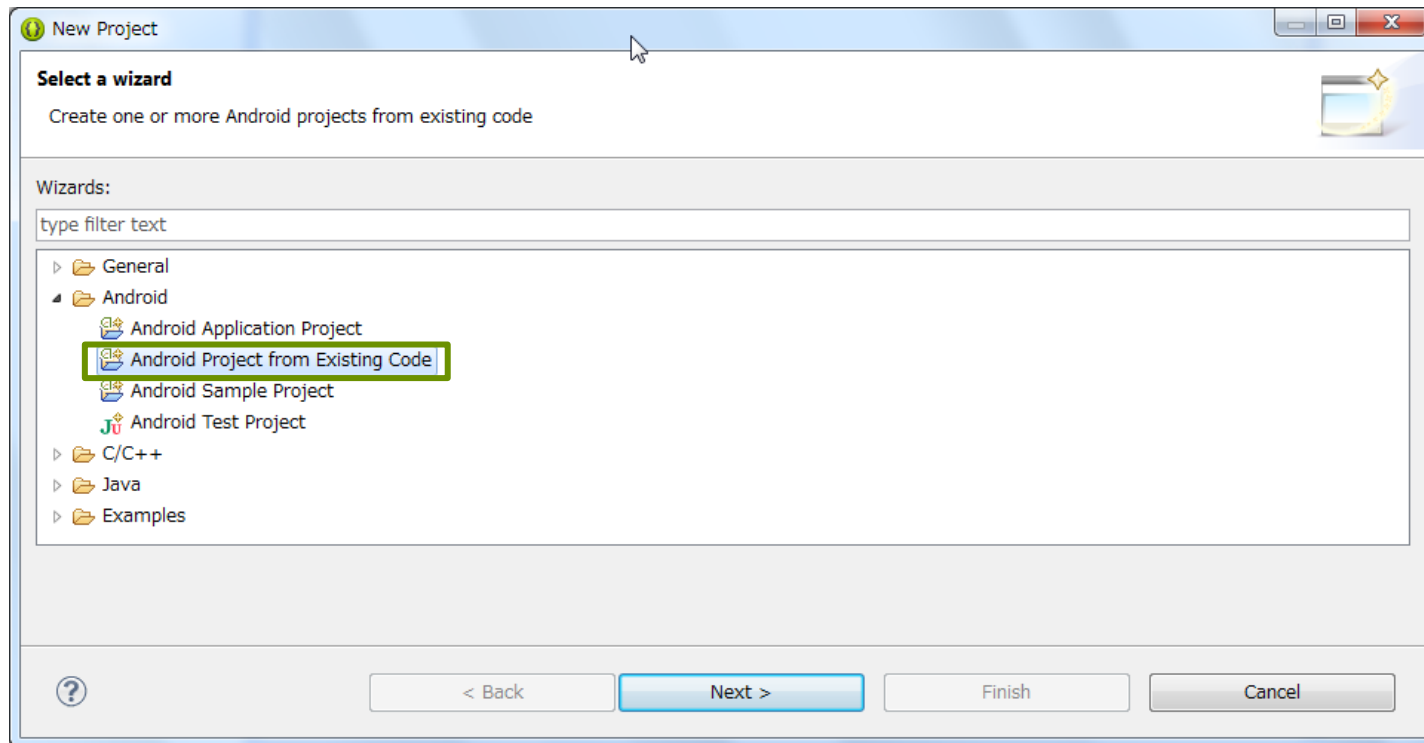
3. プロジェクトの作成

- Eclipseを起動し「File>Project」を選択します。



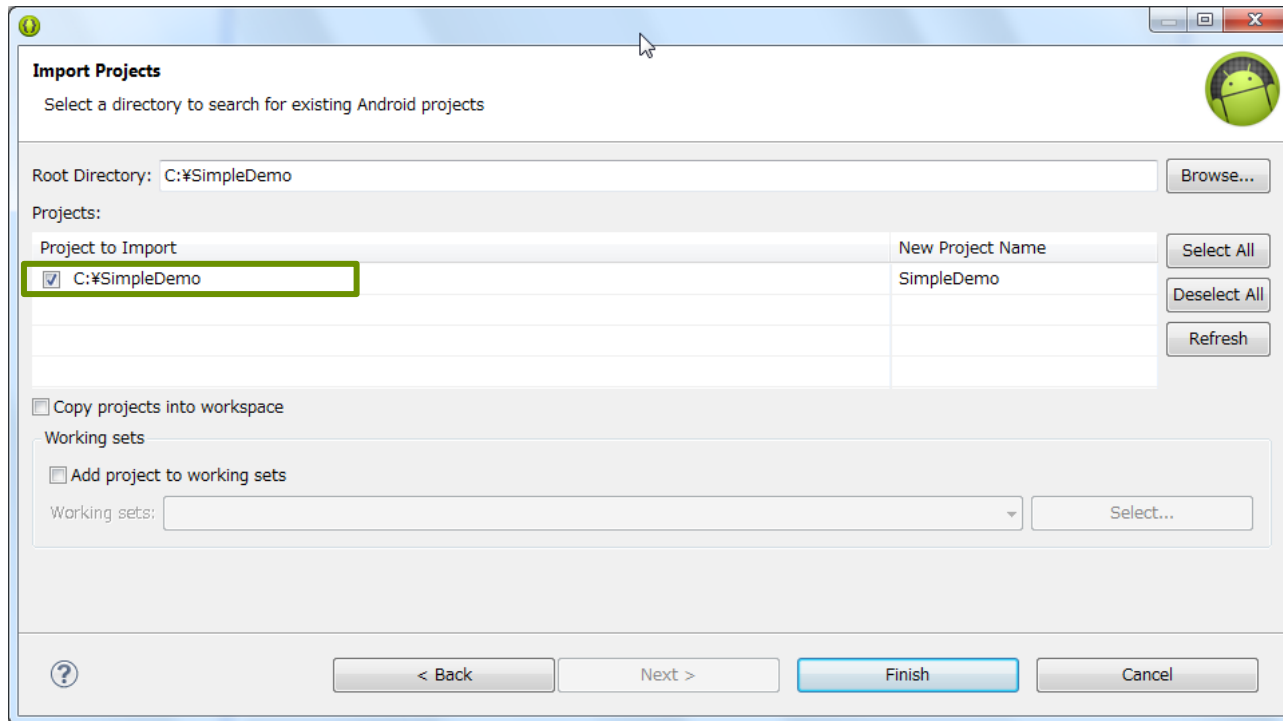
3-2. Projectの選択

- 「Android>Android Project from Existing Code」を選択します



3-3. プロジェクトの選択

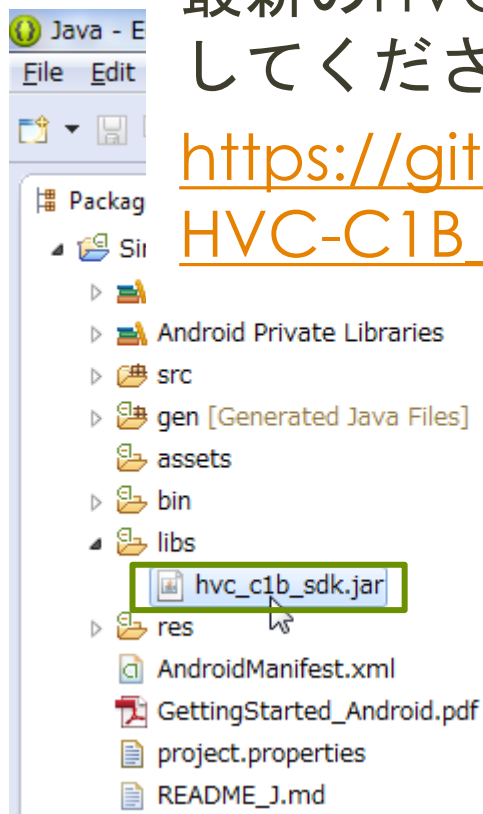
- PC上に保存した「SimpleDemo」フォルダを選択します。



3-4. ライブラリの確認

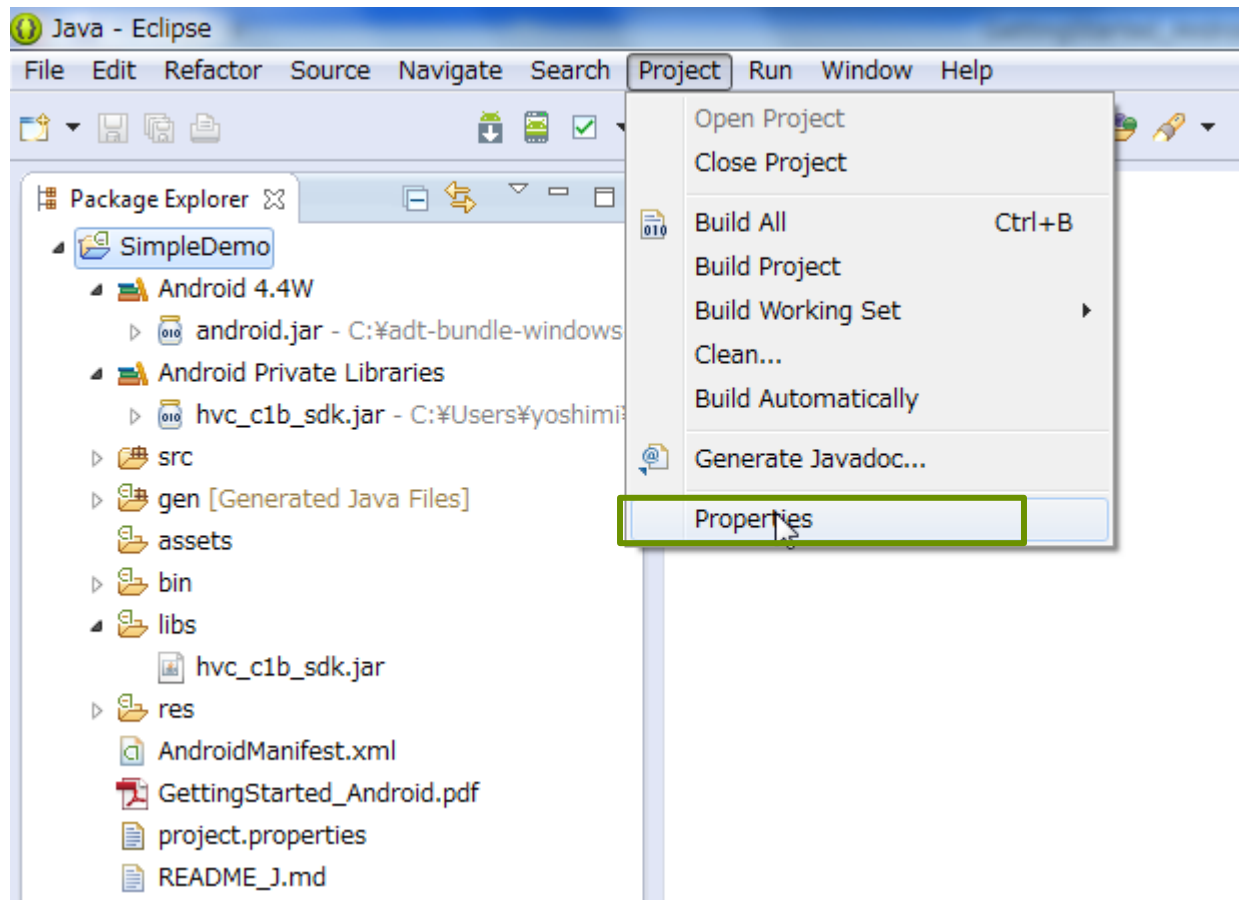
- 「hvc_c1b_sdk.jar」 ファイルを確認します。
最新のHVC-C用クラスライブラリは以下より取得してください。

https://github.com/OmronSensingEggProject/HVC-C1B_SDK-Android/blob/master/bin/



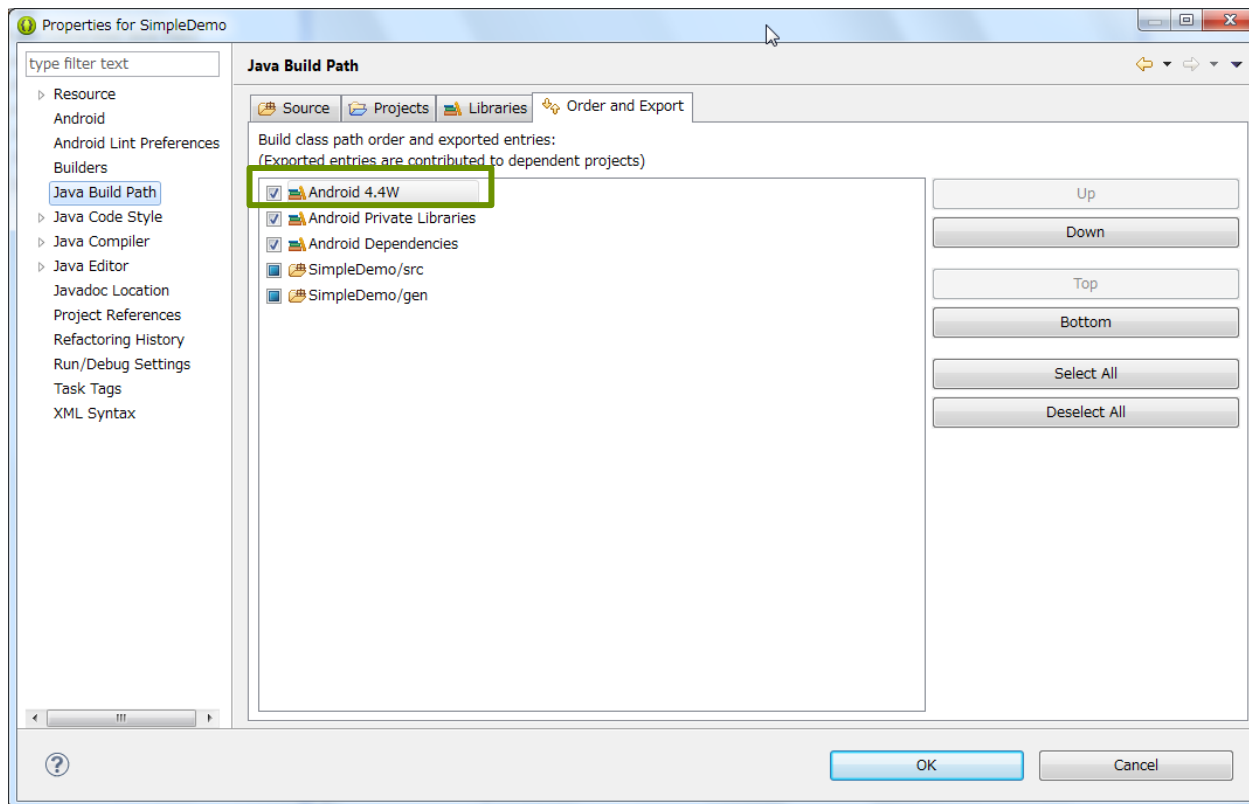
3-5. プロパティの確認①

- 「Project>properties」を選択します。



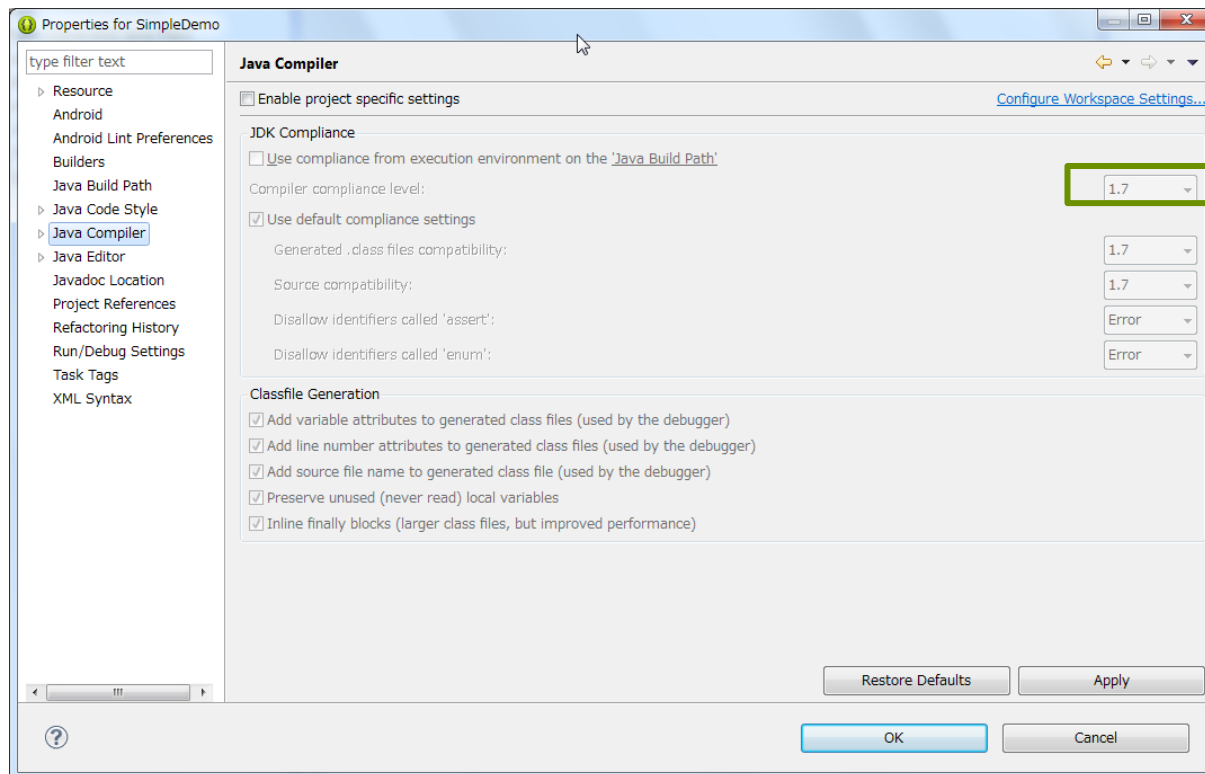
3-6. プロパティの確認②

- Android SDKが「Android 4.4 W」であることを確認



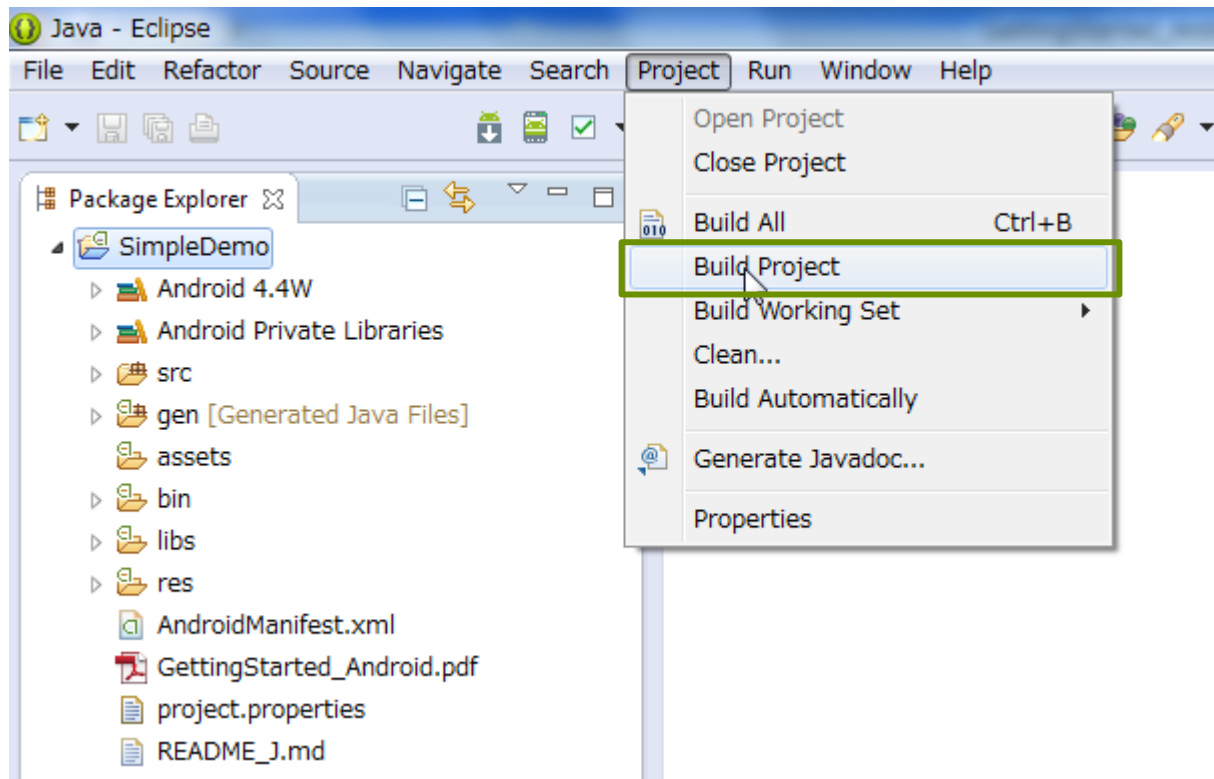
3-7. プロパティの確認③

- Java Compilerバージョンが1.7以上であることを確認



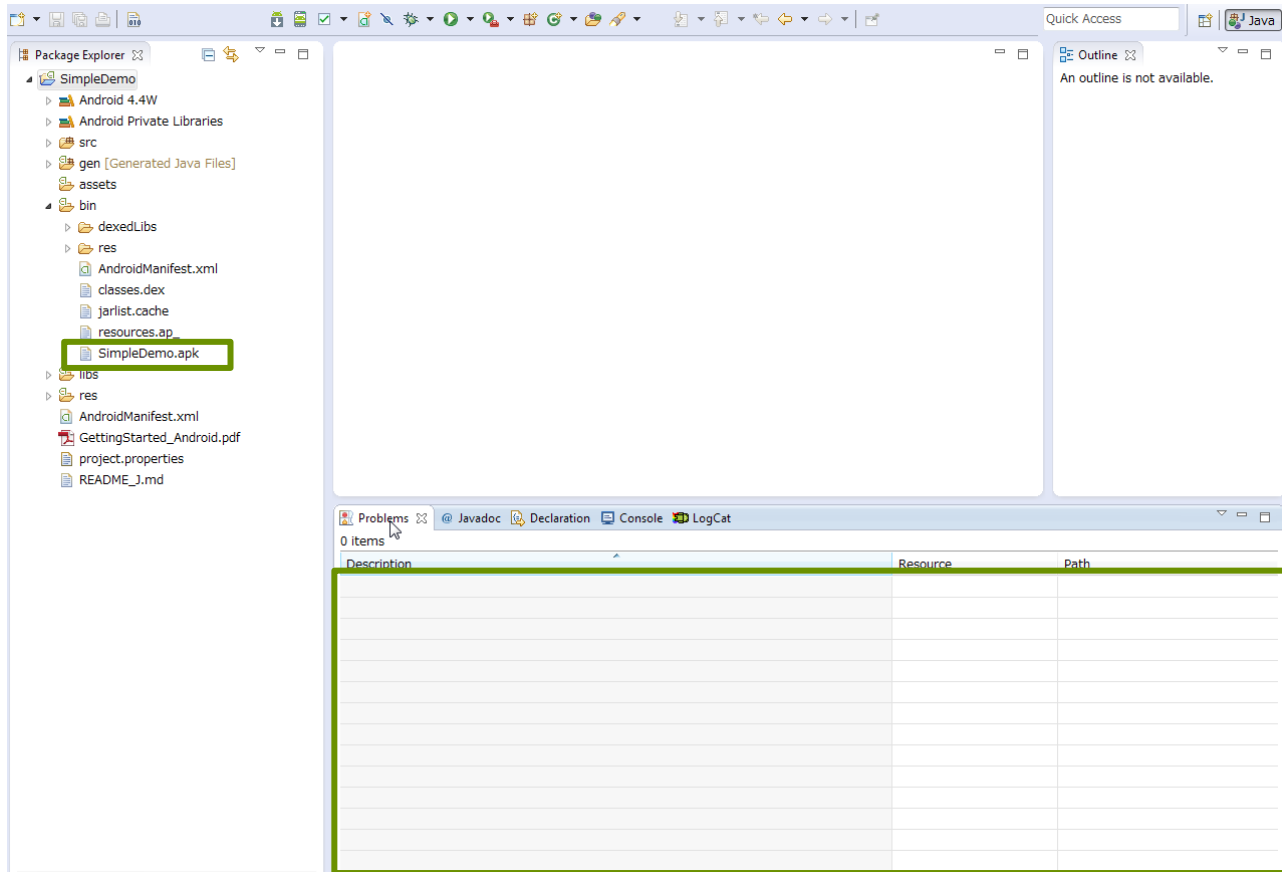
3-8. プロジェクトのビルド

- SimpleDemoプロジェクトをビルドします。



3-9. ビルドの確認

- ## ● Problemsタブにエラー表示がないことを確認



4. Android端末の接続

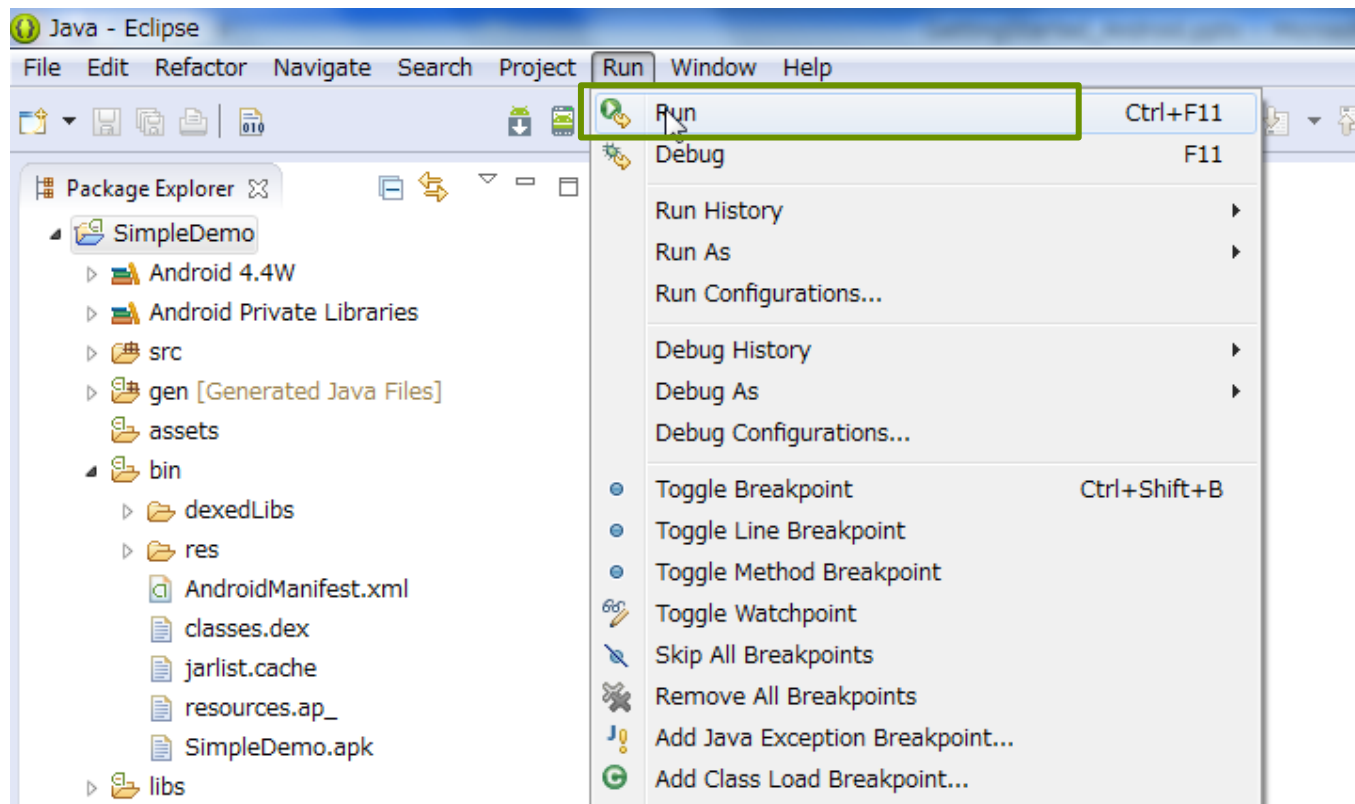
- PCとAndroid端末をUSBケーブルで接続します。

5. Android端末のBluetooth有効化

- HVC-C は通信するために Bluetooth 4.0 (Bluetooth Low Energy) を使用します。
そのためアプリを実行する前に Android デバイスの Bluetooth 機能を有効にします。
- 「設定＞Bluetooth」をONにします。
- ただしペアリング設定はしないでください。
ペアリングした状態ではアプリ側で接続できない可能性があります。

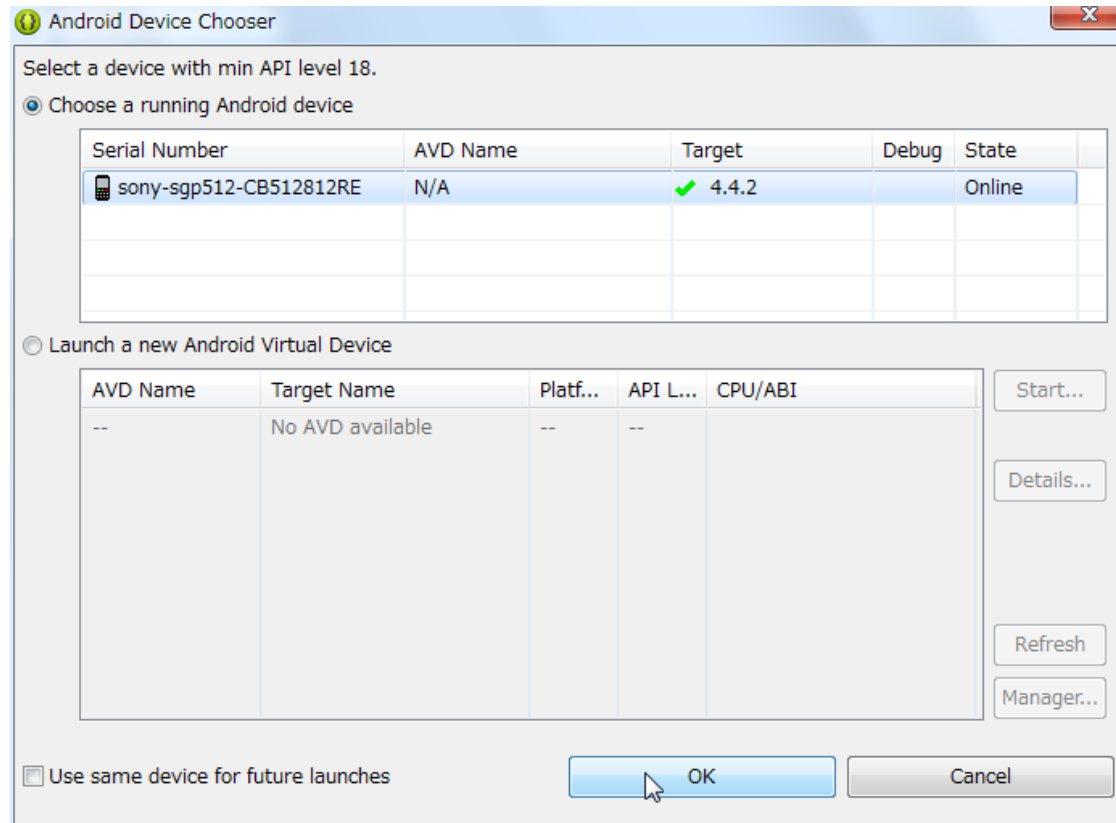
6. HVC-CをAndroid端末から動かす

HVC-Cにmicro USBケーブルを接続して電源を供給し、プロジェクトを「Run」してください。



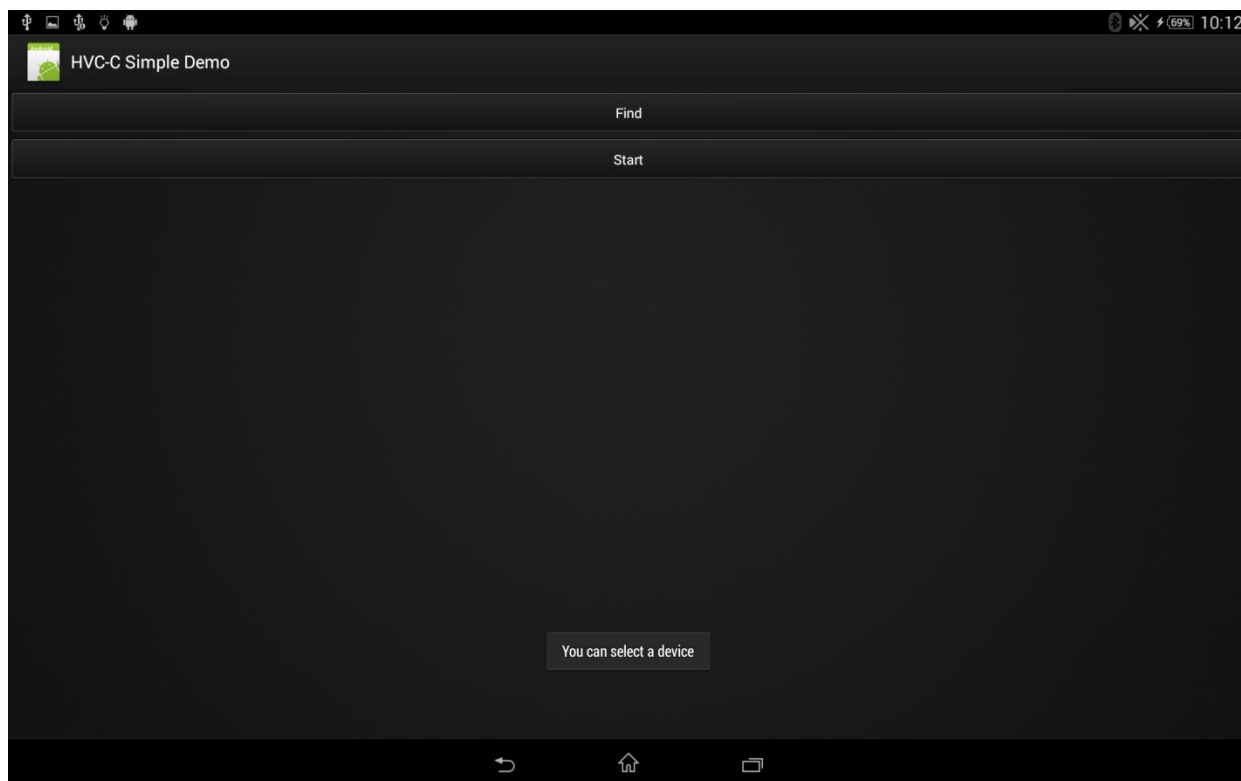
7. Android端末の選択

- デモを実行するAndroid端末を選択します。



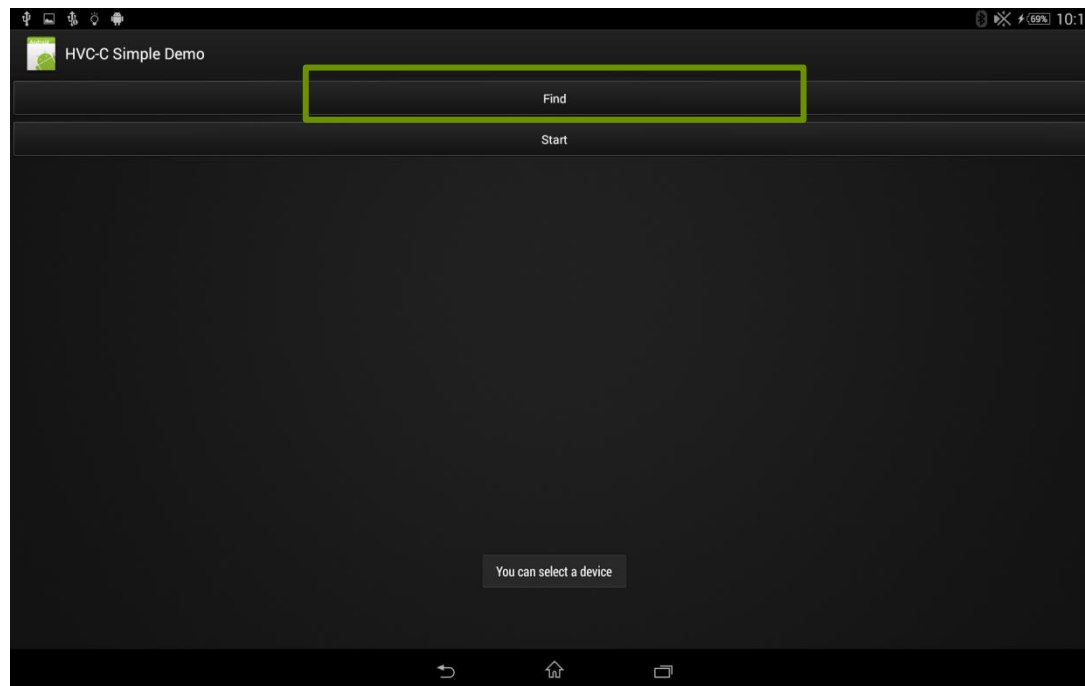
8. アプリ起動の確認

- 下記の画面が表示されていればアプリは正常の動作しています。



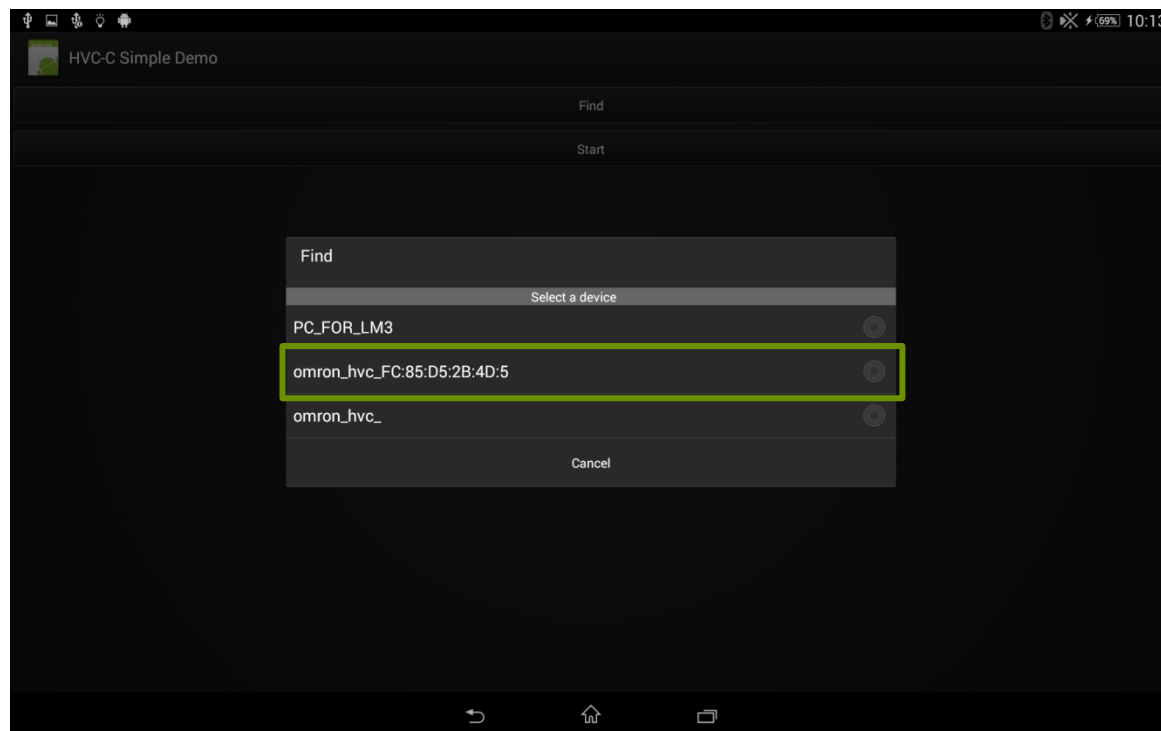
9. BLEデバイスのスキャン

「Find」ボタンをタップして接続可能なBLEデバイスを探します。



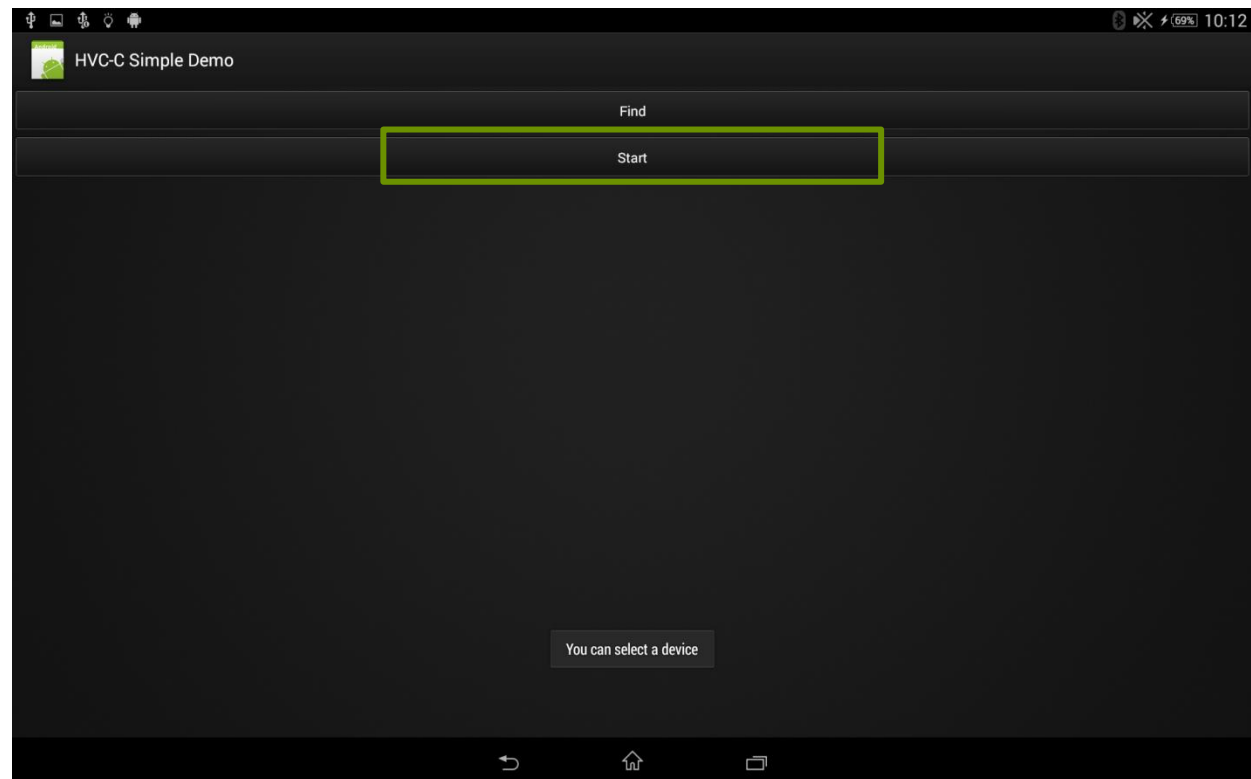
10. 接続するデバイスの選択

- 接続可能なBLEデバイスの一覧が表示されますので、HVC-C（「omron_hvc_xxxx」）を選択します。



11. 検出処理の実行

- 「start」 ボタンをタップすると検出処理が連続実行されます。



11. 検出結果の出力

- 画面上に検出結果が表示されます。
- 「stop」 ボタンをタップするまで、検出処理は連続して実行されます。



12. 使ってみよう！

- サンプルデモを実行しながら、まずは1m~1.5m位離れたところからHVC-Cのセンサ部を真っ直ぐ見てみて下さい。

顔の動きや表情に合わせて、検出座標や表情推定結果が変化するのが確認できると思います。

※本サンプルデモは処理速度が遅く感じるかと思います。本サンプルデモはHVC-Cに搭載されている全機能を実行させているためです。実行する機能を選択することや検出設定の変更により処理速度を速くすることができます。